

09年度第3四半期(累計) 決算説明資料

2010年2月3日

沖電気工業株式会社

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

本日のご説明内容

第3四半期累計期間 決算について

- 1) 事業別セグメントの概要【サマリ】
- 2) 営業利益の変動要因
- 3) 事業別セグメント情報
- 4) P/Lの概要
- 5) B/Sの概要
- 6) キャッシュフローの概要

事業別セグメントの概要【サマリ】

【対前年同期比較(前年の半導体を除く)】

- 売上高: 532億円の減収
 - ・情報通信: 主に国内金融事業の需要一巡により減収
 - ・プリンタ: 為替影響99億円に加え、景気低迷の影響により減収
 - ・その他: 景気低迷の影響を受け、部品関連事業が依然低調
- 営業利益: 47億円の増益

(単位:億円)	実績		前年同期 (* 除く半導体)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信	1,679	42	1,988	△30
プリンタ	1,046	24	1,215	62
その他	165	△8	218	△9
消去・本社費	—	△46	—	△60
合計	2,889	11	3,421	△36

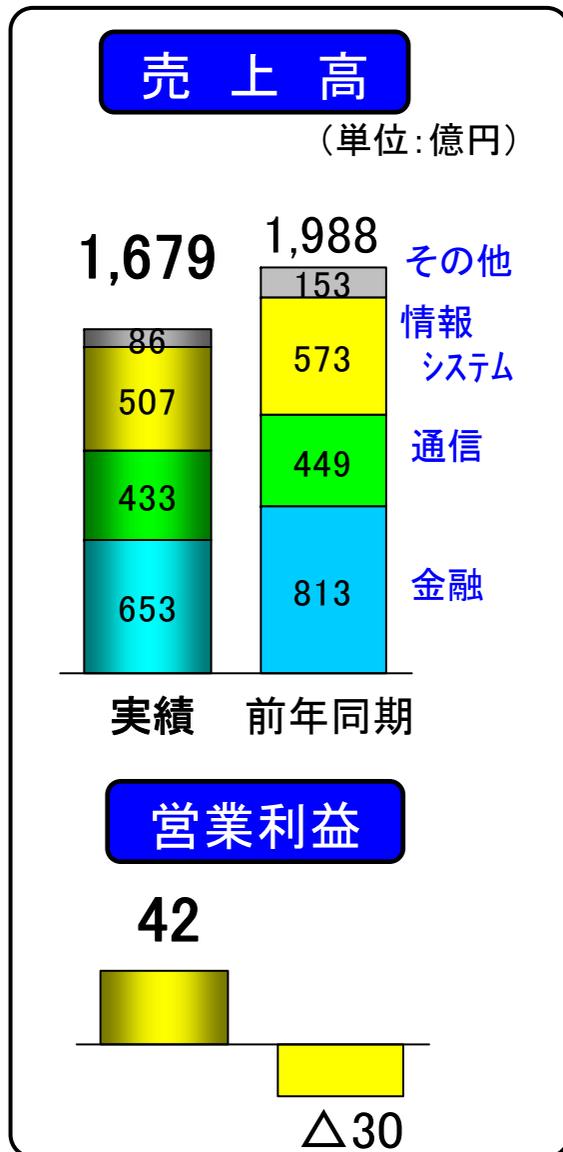
営業利益の変動要因

- 調達コスト低減およびVE、固定費適正化などを行い、物量減による限界利益の減少、価格下落、円高による影響などを吸収

(単位:億円)		営業利益
	実績	11
	前年同期 (* 除く半導体)	△36
	営業利益増減	+47
主要変動要因	物量増減および機種構成差	△105
	価格下落	△35
	為替影響	△20
	調達コスト低減およびVE	+40
	固定費変動	+165

VE: Value Engineering

事業別セグメント情報 【情報通信】



■ 売上高 309億円減収

➤ 金融:

中国向けATMは増収。国内の流通向けATMリプレース、営業店システムの大型案件は需要一巡により減収

➤ 通信:

通信キャリア向けは前年同期並み。GE-PONや既存NWは増収となったものの、不採算のホームNW機器を縮小。企業向けは景気低迷の影響もあり減収。

➤ 情報システム:

法人向けは、製造業を中心とした投資抑制の影響もあり減収

■ 営業利益 72億円改善

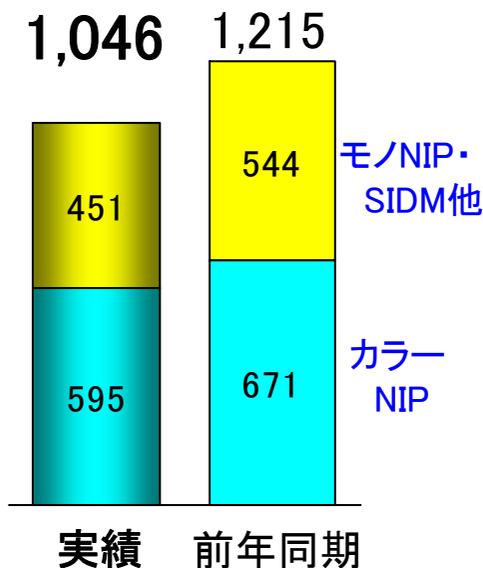
調達コスト低減およびVE、固定費適正化などを行い、物量減による限界利益減少の影響を吸収

ATM: Automated Teller Machine
GE-PON : Gigabit Ethernet Passive Optical Network
NW: Network

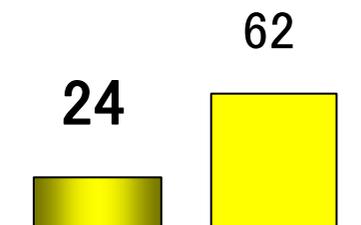
事業別セグメント情報【プリンタ】

売上高

(単位:億円)



営業利益



■ 売上高: 169億円減収

- カラーNIP:
 - ・為替影響により57億円減収(以下、為替を除く)
 - ・MFPの新商品効果により販売台数が増加した一方、景気低迷によるカラー印刷の抑制傾向や本体の価格下落により減収
- モノNIP・SIDM他:
 - ・為替影響により42億円減収(以下、為替を除く)
 - ・本体は価格下落。その他、モノNIPは新商品投入効果や欧州でのプロモーション効果などにより増収、SIDMは市場全体の縮小により減収。

■ 営業利益: 38億円減益

為替影響により23億円減益。調達コスト低減およびVE、固定費の適正化などを行うも、為替影響や物量減による限界利益の減少、価格下落などを吸収できず

NIP: Non-Impact Printer

MFP: Multi Function Printer

SIDM: Serial Impact Dot Matrix

P/Lの概要

(単位:億円)	実績	前年同期
売上高 (除く半導体)	2,889 (2,889)	3,962 (3,421)
売上原価	2,112	3,002
販売管費	766	1,047
営業利益 (除く半導体)	11 (11)	△87 (△36)
営業外収支	△42	△49
経常利益	△31	△136
特別損益	△24	△271
税引前利益	△55	△407
当期純利益	△87	△481

【対前年比較】

- 半導体セグメントが抜けた影響は、
売上高 541億円減収
営業損益 51億円改善
- 営業外収支は有利子負債削減に伴う
支払利息の減少を中心に良化
- 特別損益は前年に事業構造変革策の
実施や制度変更などがあったことから
大幅に良化

【参考:平均為替レート】

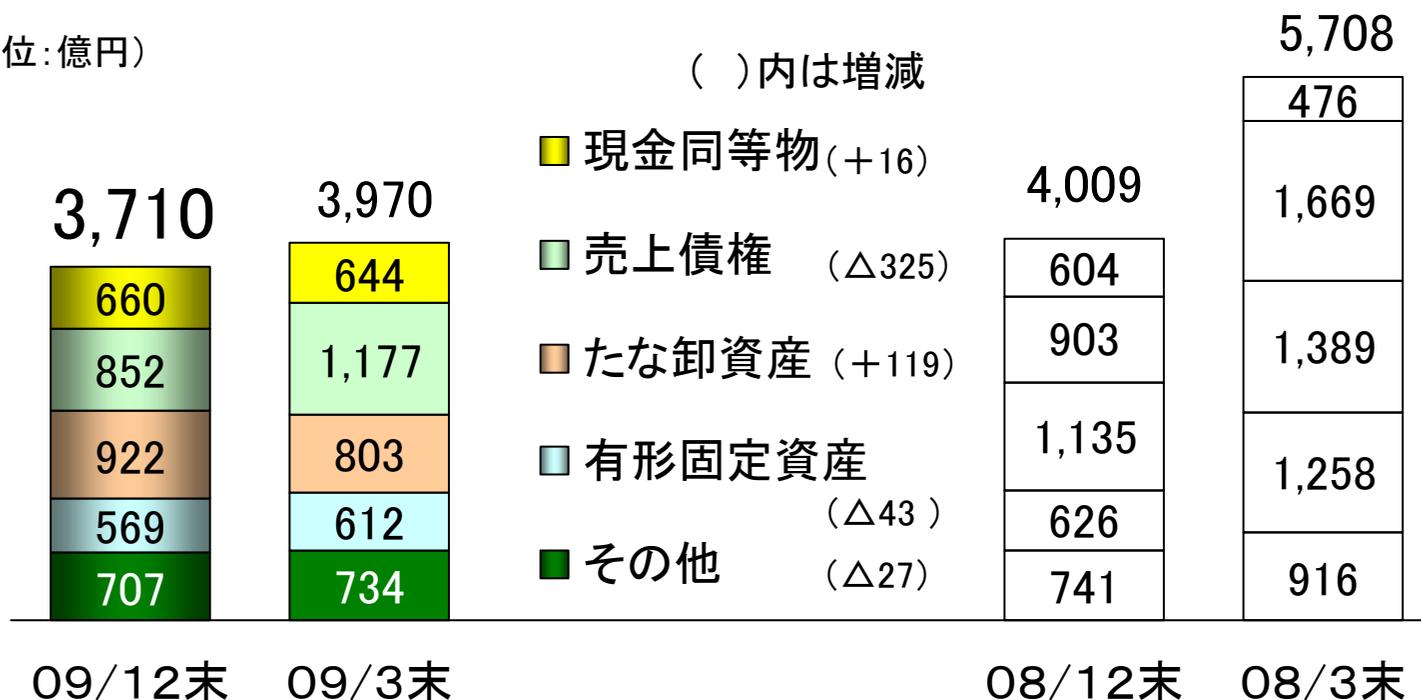
	09年度	前年同期
USD	93.6	102.9
Euro	133.0	150.7

* 半導体事業は、08年10月に分社化の上株式を譲渡

B/Sの概要【資産の部】

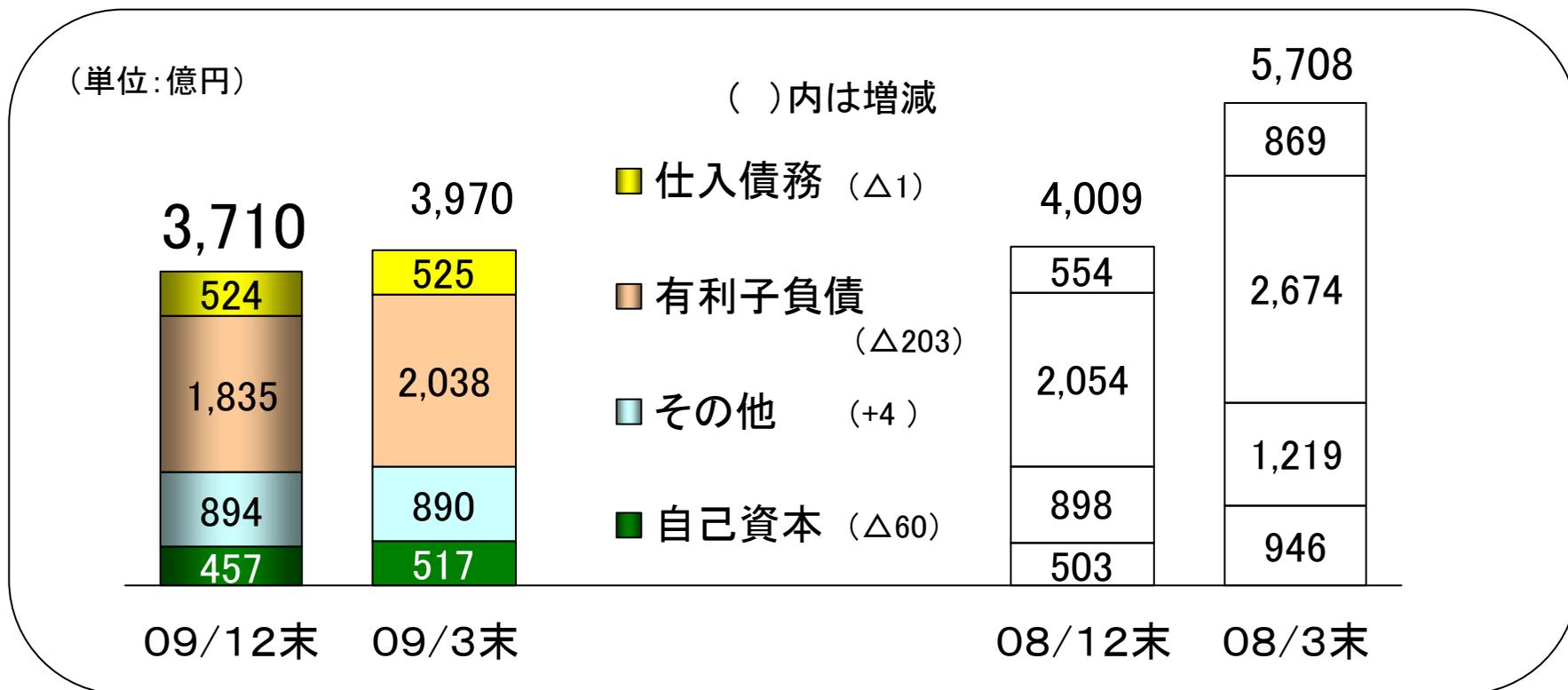
- 現金同等物は社債償還など減少要因はあるものの、運転資金の改善等によるフリー・キャッシュフローの収入により増加
- 例年、第4四半期の売上高が大きいことから
 売上債権：3月末に増加、その後現金等で回収され12月末は減少
 たな卸：3月末に減少、12月末は1月以降の売上案件増により増加

(単位：億円)



B/Sの概要 【負債・純資産の部】

- 有利子負債は社債の償還などにより減少
- 自己資本は保有株式の評価額上昇による評価差額金の増加などがあるものの、当期損失があるため全体では減少



キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフロー: 当期純利益および運転資金の改善により収入増
- 社債の償還にフリー・キャッシュ・フローを充当

(単位: 億円)	実績	*前年同期	備考
I 営業キャッシュフロー	326	92	
税金等調整前当期純利益	△55	△407	
減価償却費	115	213	
運転資金の増減	215	135	
その他	51	151	
II 投資キャッシュフロー	△89	625	
設備投資支払額	△60	△152	(*) 半導体子会社株式売却による収入を含む
その他投資活動	△29	(*) 777	
フリー・キャッシュ・フロー(I + II)	237	717	
III 財務キャッシュフロー	△216	△588	
キャッシュフロー計(I + II + III)	21	129	
現金同等物等の期末残高	660	604	

* 前年には半導体セグメントの数値が含まれる